

# Ⅶ 全ての教員で研究を進めるための取組

## Ⅶ-① 授業づくりに全ての教員が参画するための工夫

A小学校

校内研究授業に向けては、授業者およびその学年の教員だけでなく、多くの教員が授業づくりに関わるための工夫がされました。ここでは、小学校における「授業づくり委員会」と「アイデアの泉」について紹介します。

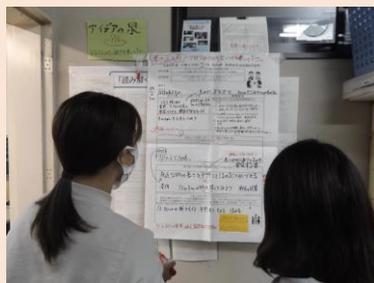
### 「授業づくり委員会」

授業者  
校内研究主任  
「学びづくり部」の部長  
各学年代表  
希望者



「授業づくり委員会」では、授業者、校内研究主任、学習習慣や学習環境を整える「学びづくり部」の部長、各学年代表、希望者が集まり、指導案検討会が数回実施され、関係する分掌の多くの教員で指導案づくりが行われました。

### 「アイデアの泉」



印刷室には「アイデアの泉」のコーナーを設け、拡大した研究授業の指導案を掲示し、指導案検討会に直接参加していない教員も自分のアイデアや考えを書き加えられるような場が整えられました。



A小学校  
校内研究主任

2学期の授業のために、夏休みからみんなで授業づくりをしました。特に学年の中では、何度も話合いが重ねられ、**困っていることが気軽に申し合える雰囲気**になっています。また、指導案は全ての教員がチェックするようにしています。そのことで、**みんなが授業を自分事として**捉えられ、協議会でも自分事として話すことができました。



A小学校管理職

校内研究主任が一人で頑張りすぎると、余裕がなくなり、他の教員もやらされ感をもってしまいがちです。今年度の校内研究は、みんなで授業をつくる**雰囲気**ができてきて、多くの教員の力で丁寧に授業がつけられています。コロナ禍でも**みんなで学び続けよう**とする教員集団をたくましく感じています。



学校全体で授業づくりを丁寧にされていて、研究授業に向けて多くの先生が関わっておられますね。研究会の様子からも、**みんなが授業を大切にされている**ことがよく分かりました。

# Ⅶ 全ての教員で研究を進めるための取組

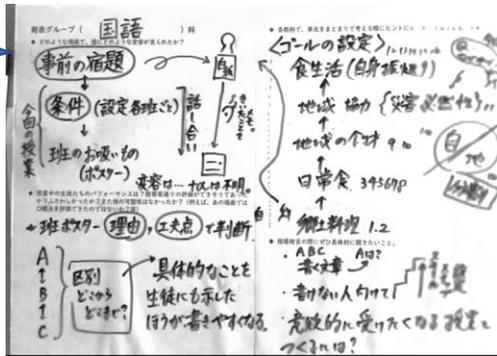
## Ⅶ-② 協議の視点を明確にした研究会

B中学校

B中学校では、担当する教科によって編制されたグループに分かれて研究授業後に授業協議会が行われました。校内研究主任が、事前に協議会の内容や目的について示した通信を発行したり、協議の視点を示したホワイトボード（協議の視点を印刷したシートを挟んだ協働学習用のボード）を準備したりしておくことで、焦点化された話し合いが行われました。一人ひとりの教員が、校内研究会で学んだことを自分の日々の授業に結び付けるために、研究授業を踏まえて共通して取り組むことや自分の授業の中での生かし方について、教科の枠を越えて学ぶ教員の姿が見られました。

どのような場面で、誰にどのような変容が見られたか。

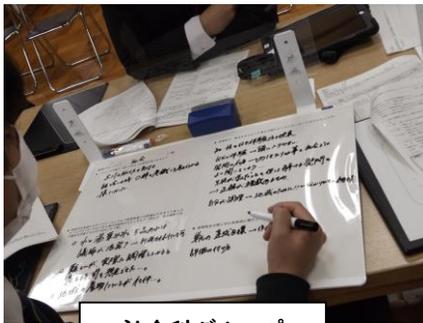
子どもの姿から語る視点



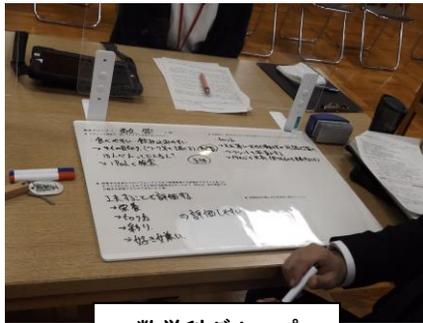
国語科グループで活用されたホワイトボード

各教科で、「単元をまとまりで考える」際にヒントになったことはどんなことか。

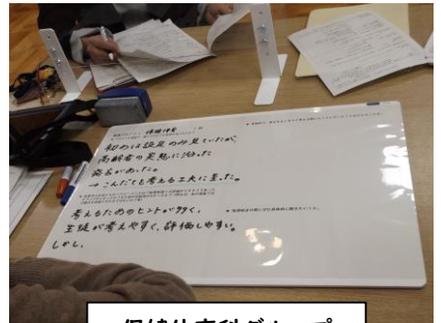
担当教科の授業に結び付ける視点



社会科グループ



数学科グループ



保健体育科グループ

ホワイトボードを用意して、論点を明確にしておくことは協議において有効ですね。このことにより、**各グループの論点が焦点化**されたものになります。ホワイトボードには、グループのみんなで共有できる、すぐ書いたり消したりできるというよさがあるので、うまく活用できるといいですね。

中学校では、よく教科の壁があるといわれますが、他教科の教員グループでも、参観した教科の内容について議論されています。また、自分の**担当教科の授業に関連付けて話している姿**も見られます。例えば、理科グループでは、振り返りの書き方について「毎時間書いている」「実験のときだけ書いている」「単元の終わりに書いている」など自分たちのこととして話されていました。これは、教科ごとに協議するよさが出ていて、授業改善につながります。

